山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP
QRｺｰﾄﾞ ←カラーで見られます！
令和５年４月２４日（月）　第４号
校　長　池部　聖吾智（みわとも）

「公言」して退路を絶つ！

この土日に、双葉社「突出力」児玉光雄著　を読みました。これは、熊本出身ヤクルトスワローズの村上宗隆選手の哲学に学べる一冊です。

村上選手は、昨年シーズン前の３月に記者インタビューで「３割４０本１００打点、タイトルは全て獲得する」と公言し、ホームラン新記録や三冠王等数々の驚異的な成績を残しました。前掲書では、哲学者ウィリアム・ジェームズの「人間というものは、概して、その人間の思い描いた通りの人間になる」という言葉を紹介しています。

先日のＰＴＡ総会で、私は今考えている「とてつもなく大きな計画」を公言しました。これで後には引けなくなりました。タイムリーにこの本と出会い、最初から「難しい」「実現できないかもしれない」と考えず、本当に実現するつもりでいく覚悟ができました。今回も読書からパワーをもらいました。

東西潤徳小コラボ（東京都日野市立潤徳小学校との交流）の可能性

昨年１１月から同じ名前の（日野）潤徳小学校とオンライン交流を始めました。新入生以外は、昨年度１回ずつは交流できています。今年度は、新入生同士の交流はもちろんですが、「授業交流」も加えていけたらと考えています。

そんなところに、先週末（日野）　年担任の先生（　　）から「社会」授業の交流について相談がありました。授業の一部に本校児童が登場するイメージのようです。こういう気軽さがいいのです。必要な時に、お互いの学校のチカラをお借りする・・・東西コラボならではの利点と言えます。本校児童は少人数授業に慣れきっているので、「大人数の中に飛び込んで意見交流をする」授業をぜひ体験させたいですね。今後の東西コラボの可能性、考えるだけでワクワクします！

潤徳抄Ⅱ

便りには「チカラ」がある。担任時代の学級通信、学年主任時代の学年だより、そして現在校長として発行している学校だよりでもそのことを強く感じている▼先週ある日の昼休み、保護者が運動場近くに来られた。「子どもが『一輪車乗れるようになったよ見に来て』と言うので来ました」とのことだった。その子は、私たちの前でスイスイと一輪車を運転するシーンを見せてくれた▼その保護者は「家庭での我が子の姿しか見ていないので学校でどう過ごしてるか心配です」と言われた。しかし学校だよりでその子のステキな場面を知り感動されたそうである▼私からも、その子のステキな面を保護者に伝えた。「便り」は家庭内会話のきっかけも作っているのだ。便りのチカラは大きい！またこういう話を聞くと作成意欲も高まる。これからも、学校で見つけた子どもたちのステキな部分を惜しみなく発信していきたい。